

# 業績予想の修正と事業推進について

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ (2009.2.6 プレスリリース)

・第2四半期連結累計期間業績予想の修正  
(平成20年7月1日～平成20年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	1,750	20	10	0	0円00銭
今回修正予想 (B)	1,875	151	83	23	542円46銭
増減額 (B)-(A)	125	131	73	23	—
増減率	7.1%	655.0%	730.0%	—	—
(参考) 前中間実績 平成19年12月期	1,478	△210	△273	△399	△9,316円57銭

**売上高:**当初予想より125百万円増  
・ロシユグループ及びキアゲングループ向けDNA自動抽出装置のバージョンアップ製品、新規OEM向け新製品の本格的出荷を開始しました。

**営業利益:**当初予想より131百万円増  
・売上増加による売上総利益増加と前期末下期より手掛けてきた様々な経費削減策効果が、予想を上回った事によるものです。

**経常利益:**当初予想より73百万円増  
・マイナス要因として急激な円高の影響を大きく受け営業外損失(為替差損75百万円)と、子会社のPSSキャピタル株が管理運営するベンチャーファンドの規模を20億円から10億円に縮小により管理報酬に関する過去の超過受領分をファンドに返還して特別損失33百万円を計上しましたが、上方修正する事ができました。

【バイオコンテンツ投資事業有限責任組合】に関する変更及びこれに伴う子会社の異動について (2009.1.14 プレスリリース)  
この結果として、連結子会社が上半期において3社追加されました。(①バイオコンテンツ投資事業有限責任組合②ジェネティン株式会社③PaGE Science株式会社)

・通期連結業績予想の修正  
(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,700	100	80	40	933円71銭
今回修正予想 (B)	3,500	160	80	5	116円71銭
増減額 (B-A)	△200	60	0	△35	—
増減率	△5.4%	60.0%	0.0%	△87.5%	—
(参考) 前期実績 平成20年6月期	3,397	△141	△248	△400	△9,350円09銭

**売上高:**当初予想より200百万円減  
・PSSの売上高の大半は欧州を中心とする海外の割合が高くなっています。近時の為替動向を勘案して、為替の想定レートを1ドル=105円、1ユーロ=160円から、下半期の想定レートを、1ドル=90円、1ユーロ=115円に変更を行い、現在の受注動向を勘案した見通しです。

**営業利益:**当初予想より60百万円増  
・当初の売上と売上総利益見通しは減少しますが、販売費及び一般管理費は、開発費を中心に予想以上のコストダウン効果により、当初予想の1,400百万円より160百万円減少の1,240百万円に抑えられる見通しです。

**経常利益:**当初予想どおり  
・上半期に発生した営業外損益影響により、経常利益は当初予想どおりの見通しです。また、特別損失と法人税充当額などにより、当期純利益は5百万円の見通しとなりました。

第24期下半期事業推進において重要な点とは?

DNA自動抽出装置・消耗品は、景気や円高の影響を、今のところにおいてそれほど受けていない事から考えると?

PSSの今後の成長には、新たに業界で顧客満足度が高く他社製品と一味違った売上・収益の柱が必要に!

業界への  
ブレイクスルー  
(新製品上市)

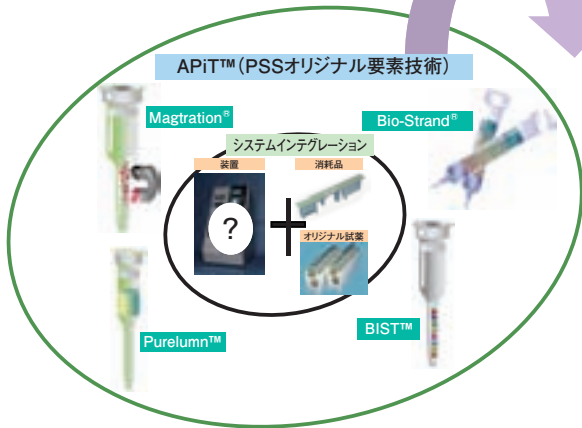
将来の成長への投資と当期収益確保とのバランスが必要

円高対応策による  
収益改善努力  
(第24期黒字化)

今後の円高基調を織り込んだ  
事業推進が必要に!

### PSSの考える業界のブレイクスルーとは？

要素技術の最適な組み合わせにより分子診断における新たな付加価値を提案

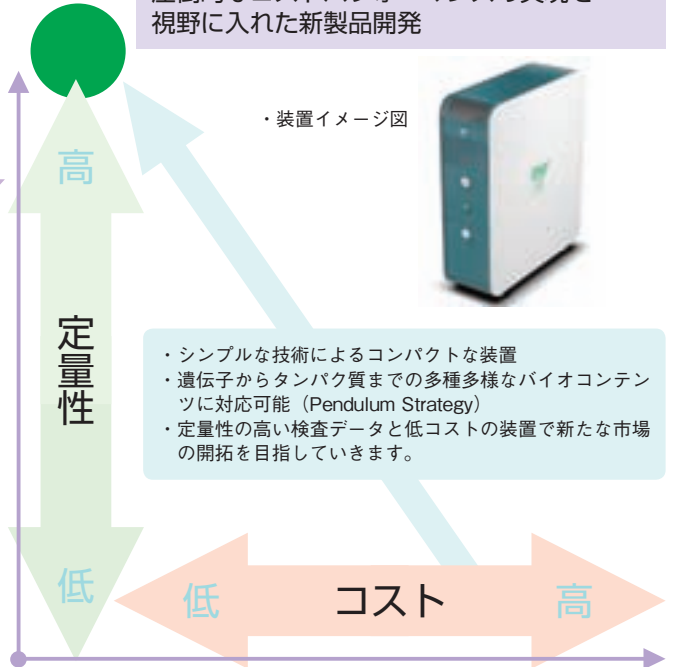


### 圧倒的なコストパフォーマンスの実現を視野に入れた新製品開発

・装置イメージ図



- ・シンプルな技術によるコンパクトな装置
- ・遺伝子からタンパク質までの多種多様なバイオコンテンツに対応可能 (Pendulum Strategy)
- ・定量性の高い検査データと低コストの装置で新たな市場の開拓を目指していきます。



### 円高対応策 (第24期黒字化)

- 1, 製造原価削減と円高メリットを生かした海外調達
  - ・仕入れ価格引下げ交渉
  - ・消耗品のPSSによる一括調達、業者へ支給 (原材料価格高騰への対応としてスタート ⇒現在、価格下落+円高メリットが出ています。)
- 2, OEM取引先との契約条件 (為替変動調整) の交渉
  - OEM先との販売契約条件のほとんどにおいて、為替リスクを分担できる契約条件内容への見直しを行いました。
- 3, 経費削減強化策の継続
  - ・上半期において通期削減目標額 (200百万円) をほぼ達成
  - ・下半期においても、最近の経済環境 (景気・円高) に対応するため引き続き強化策を継続していきます。

### 改善策により期待できる成果 (第24期通期連結業績)

